

・ 第30回工業教育全国研究大会 挨拶

コロナ禍での第30回工業教育全国研究大会（誌面発表）

第30回工業教育全国研究大会実行委員会
委員長 三輪 智英
(日本工業教育経営研究会近畿支部会長)

平素より日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会にご支援とご協力を賜り、紙面をお借りして感謝申し上げます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を受け、厳しい制約の中で歩み始めました。教育界はもとより国内外の経済活動にも大きな影響を与えています。また、「令和2年7月豪雨」では全国各地、特に九州地方におきましては甚大な被害がもたらされました。尊い命を奪われた方々やご家族、被災されました皆さまには、心よりご冥福とお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、令和2年7月11・12日に大阪電気通信大学駅前キャンパスをお借りして開催予定であった「第30回工業教育全国研究大会」については、コロナ禍により「開催中止」となってしまいました。

本会事務局をはじめ大会関係者の方々、ご講演をお願いしておりました(株)移動ロボット研究所 代表取締役 小柳 栄次 様、(株)きんでん 人材開発部 志水 優太 様、各分科会で研究発表等をして頂くことになっておりました皆さまには、大変ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。また、開催準備等でたいへんお世話になっております近畿支部関係者の方々にも、ご支援とご協力に対しまして感謝申し上げます。

令和2年度の本大会は、「30回を迎える節目の大会」として関係各位から様々なご協力とご支援を賜りながら記憶に残る大会となるよう努めて参りました。大会の開催は「中止」となりましたが、記念の足跡を残そうと本会事務局をはじめ、関係者の皆さまのご協力により大会記念として冊子を作成し、皆さまにご提供させていただくことになりました。ご尽力頂きました本会事務局をはじめ関係者の方々には重ねてお礼を申し上げます。

さて、コロナ禍により世の中の様々な仕組み等が大きく変わりつつあり「新しい生活様式」や「働き方の新しいスタイル」などが提言されています。そのような中でも、日本のものづくりが直面している大きな課題は「少子高齢化による生産年齢人口の減少」や「技能・技術の継承」、工業科を希望する教員の「減少と採用選考の受験倍率低下」があげられます。教育界においても学習指導要領が改訂され、2020年度からは小学校において全面实施、中学校においては2021年度から全面实施されます。高等学校においても2019年度から移行期間、2022年度入学生徒から年次進行となっています。高等学校学習指導要領は「社会に開かれた教育課程の実現」を改訂の理念として、学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことを目指しています。将来の予測が困難な社会の中で、生徒が自ら主体的に向き合って関わり合い、多様な人々と協働し、試行錯誤しながら課題を発見・解決していく力を身につけるようにすることが重要となります。

現在すべての人が新たな出発点に立っています。社会全体が沈滞化の雰囲気の中で、どのように活力ある生活に戻すか。それは、全ての皆さん一人一人が智慧をだして考え実行していくことです。日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会の関係者の皆さまを中心として、日本のものづくりが革新的なものづくりを取入れながら、脈々と引き継がれていけるように、研鑽しつつご示唆と情報共有、ご支援とご協力をお願い致します。